

郷土の歴史と文化への思い

市制施行110周年記念行事を開催

市では、市制施行110周年を記念し、本市の歴史や文化にかかわる各種行事を行います。

また、市の文化施設の無料開放も予定しています。

記念展

にいがたの歴史と文化

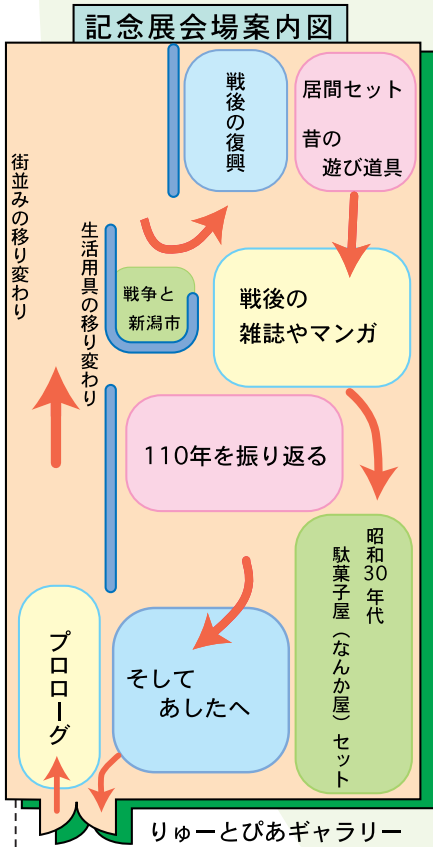
本市の明治・大正・昭和を振り返る「人々の暮らしと街並み」をテーマとした、記念展「にいがたの歴史と文化」を開催します。

同展では、普段、郷土資料館で展示していない、明治・大正・昭和の写真や実際に使われていた生活用具を展示します。ほかに、昭和30年代の懐かしい居間や駄菓子屋をセットで再現。けん玉、竹とんぼなどで遊べるコーナーもあります。

また、期間中の9月11・12日に「あそびどうく手作り教室」も開催します。



新潟警察署(左)と二代目新潟市役所(右)



記念展会場案内図(左)、記念展で展示される写真(右)と当時の生活用具(下)



全国大会優秀賞 記念文化祭

全国的に優秀な成績を収め、本市を代表する文化活動を行っている団体・個人を公演を通して紹介する「輝け！我らのチャンピオンたち」全国大会優秀賞記念文化祭を開催します。

日時 12月19日午後1時半から

会場 りゅーとびあ劇場

出演する団体・個人および鑑賞の申し込み方法については、後日、本紙にて掲載します



出演が予定されている、高校生のダンス世界大会で総合3位に入賞した新潟中央高校ダンス部

市の文化施設を無料開放

マリニピア日本海、會津八一記念館、郷土資料館、市美術館(常設展)の4施設の無料開放を予定しています。

無料開放の日時については、後日、本紙にて掲載します

日時 9月10日午後1時半から

会場 りゅーとびあコンサートホール

参加者 自治・町内会長、消防団、民生委員の代表者など約1600人

記念式典

市政とともに百十余年

萬代橋から万代橋

3代目万代橋(昭和4年8月~現在)



大河津分水事業の完成により、川幅が縮小され、橋の長さは307.7mとなりました。幅員は電車の通行を予定していたため、21.9mに拡張されました。

古来より、大河信濃川に橋を架けることは、夢の話とされてきました。明治19年、その夢が現実となりました。橋はよるすこ代までも新潟の発展に尽くすことを人は願い「萬代橋」と命名されました。

架橋により人の交流、物資の流通が盛んになりました。旧沼垂町の大火には、旧新潟市の蒸気ポンプが橋を渡り、消火に駆けつけたエピソードもあり、大正3年には、萬代橋が、本市の礎となる旧新潟市と旧沼垂町の合併を取り持つことになりました。

3代目万代橋は、戦争と復興など、激動の昭和を見つめ続け現在に至り満70年を迎えました。昭和39年の新潟地震では落橋せず耐え、物資の補給など災害復旧に大きく貢献しました。

市政の歩みとともに、百十余年にわたり、市民の生活を支える大動脈としての役割を担い続けてきた、萬代橋から万代橋。市の象徴として、また、市民が誇りに思う美しい橋として、これから先も変わることなく、本市の発展をみとどけていくことでしょう。

初代萬代橋(明治19年11月~明治41年3月)



内山信太郎と八木朋直により、明治19年11月に初代萬代橋は架橋されました。現在の万代橋より約300m上流に位置し、橋の長さ782m、幅員6.7mで当時としては、日本一長い木橋でした。

2代目萬代橋(明治42年12月~昭和4年8月)



明治41年の大火で初代萬代橋は、半分以上焼け落ちました。応急対策としてつり橋形式での架橋を急ぐかわら、初代の地杭を使用して2代目萬代橋の架橋に取り掛かり、明治42年12月に完成しました。